

保証書

型名	No. 1387 油圧式 ガレージジャッキ 3トン		
保証期間	1年間	お買上げ年月日	年 月 日
お客様	ご住所	〒 TEL() -	
	お名前	ふりがな 様	
販売店	住所・店名 TEL		

この度は、弊社製品をお求めいただきありがとうございます。本書は本記載内容で無償修理することをお約束するものです。

- 取扱説明書に従っての正常な使用状態で、保証期間中に故障した場合には、商品と本書をご持参ご提示の上お買上げの販売店または弊社にご依頼ください。
- 二次的に発生する損失の補償および、下記のような場合には、保証対象には含まれません。
 - 1) 使用上の誤り、あるいはメンテナンス等の義務を怠ったために発生した故障および損傷。
 - 2) 改造や修理による故障および損傷。
 - 3) お買上げ後の移動、落下などによる故障および損傷。
 - 4) ご使用後のキズ、変色、汚れおよび保管上の不備による損傷。
 - 5) 消耗が起因とする故障および損傷、または消耗品の交換。
 - 6) 火災、塩害、ガス害、地震、落雷、および風水害、その他天災地変、あるいは外部要因による故障および損傷。
 - 7) 本書のご提示がない場合。
 - 8) 本書にお買上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合。
 - ご転居の場合は事前にお買上げの販売店にご相談ください。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。
 - ※なお、保証の要否は、大変勝手ながら弊社に於いて判断させていただきますのでご了承ください。
- この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明な点がある場合は、お買上げの販売店または弊社にお問い合わせください。

大橋産業株式会社

〒570-0033 大阪府守口市大宮通3丁目1番14号 TEL06-6996-2631

URL <http://www.bal-ohashi.com>

アフターサービス

- 保証書について

保証書は必ず「お買上げ年月日、お買上げの販売店名」等の記入をお確かめのうえ、お買上げの販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。保証期間はお買上げ日から1年間です。

この保証書は、本製品のみの保証であって、本製品以外の故障、損害、修理等の責任は一切負いません。
- 修理のご依頼について

保証期間内は恐れ入りますが、製品に保証書を添えて、お買上げの販売店までご持参ください。保証規定にもとづき修理させていただきます。
- 補修用性能部品の最低保有期間

この商品の補修用性能部品(機能維持のために必要な部品)の最低保有期間は、製造打ち切り後6年間です。
- アフターサービス等について、ご不明な点がございましたら、お買上げの販売店もしくは弊社までお問い合わせください。

BAL

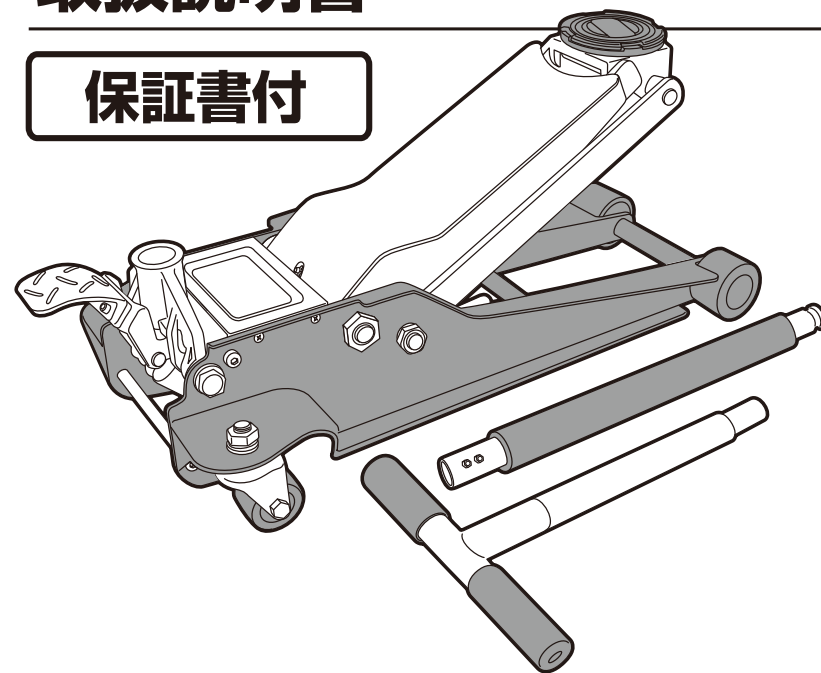
No.1387

油圧式

最大荷重
ガレージジャッキ 3トン

取扱説明書

保証書付



必ずご使用になる前に、本文に出てくる危険・警告・注意表示を詳しく読み、よく理解して正しくご使用ください。なお、この取扱説明書には保証書がついております。大切に保管してください。

いつでも使用できるように大切に保管してください。

この取扱説明書では「危険」「警告」「注意」について次のような定義と警告表示を使用しています。警告表示は安全作業のために重要な事柄です。人身事故や財物損害防止のための重要な事項が記載されていますので、必ずよく理解してからご使用ください。



危険

この表示を無視したり取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。



警告

この表示を無視したり取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視したり取扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う可能性、或いは物的損傷が発生すると想定される内容を示しています。

その他の表示

重要

この表示の記載内容は、ご使用になる上で非常に重要な内容を表していますのでジャッキをご使用になる前に必ずお読みください。

安全にお使いいただくために

■用途

本製品は自動車のタイヤ交換や整備の際に自動車をジャッキスタンドなどで保持させるために、ジャッキアップまたはジャッキダウンする目的で使用するジャッキです。本製品はジャッキアップ状態での洗車作業には使用できません。

■使用上の注意 **重要**



危険

- 製品本来の用途以外で使用しないでください。
- ジャッキアップした状態のまま車体の下には絶対に入らないでください。
- ジャッキを設置する際は、使用中に絶対にジャッキが外れない部分に設置してください。ジャッキアップしている対象物を破損させたり、対象物が落下するなどの危険性があります。
- ジャッキアップした車体の下へ手、足、身体を入れないでください。ジャッキアップした状態のまま維持させる場合は、必ずジャッキスタンドを使用してください。
- ジャッキを使用する際は、周囲に子どもがいなければ注意してください。



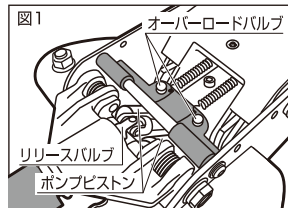
警告

- 取扱説明書をよく読み充分理解した上で使用してください。本書には重要警告事項の説明が記載されています。警告に従わずに使用した場合、重大な事故につながります。
- 本製品は自動車整備に関する一般的な知識を有する方を前提に作られています。
- ジャッキを改造したり分解しないでください。
- 自動車をジャッキアップおよびジャッキダウンする際は自動車の下に人や物などがいないことを確認してから作業を行ってください。
- ジャッキに異常が発生した場合（オイル漏れ、変形等）、使用を中止して、異常箇所の修復を完全に行うまでジャッキを使用せず、直ちに販売店または弊社までご連絡ください。そのままご使用になった場合、重大な事故につながる危険性があります。
- オーバーロードバルブ（安全弁）は出荷時に安全荷重に調節されていますので、お客様自身の調節は絶対にしないでください。（図1参照）
- 本製品でジャッキアップする際は、必ず事前にガレージジャッキ用のジャッキポイントの位置を確認してください。（ジャッキポイントの位置は車種によって異なりますので、詳しくは自動車メーカーへお問い合わせください。）
- ジャッキアップやジャッキダウン中にジャッキアップした物に振動や力を加えたりしないでください。
- 本製品は平滑で強固な地面でのみご使用ください。傾斜地や凹凸のある地面、軟弱な地面では使用しないでください。
- ジャッキが自動車から外れたり破損することがあるので、2台以上同時に使用しないでください。
- ジャッキの持ち運びやジャッキダウンする際に、フレームなど可動部分で指などを挟まないようにしてください。
- 電子制御サスペンション車は、必ず自動車に添付のマニュアルを確認してからジャッキアップ作業をしてください。

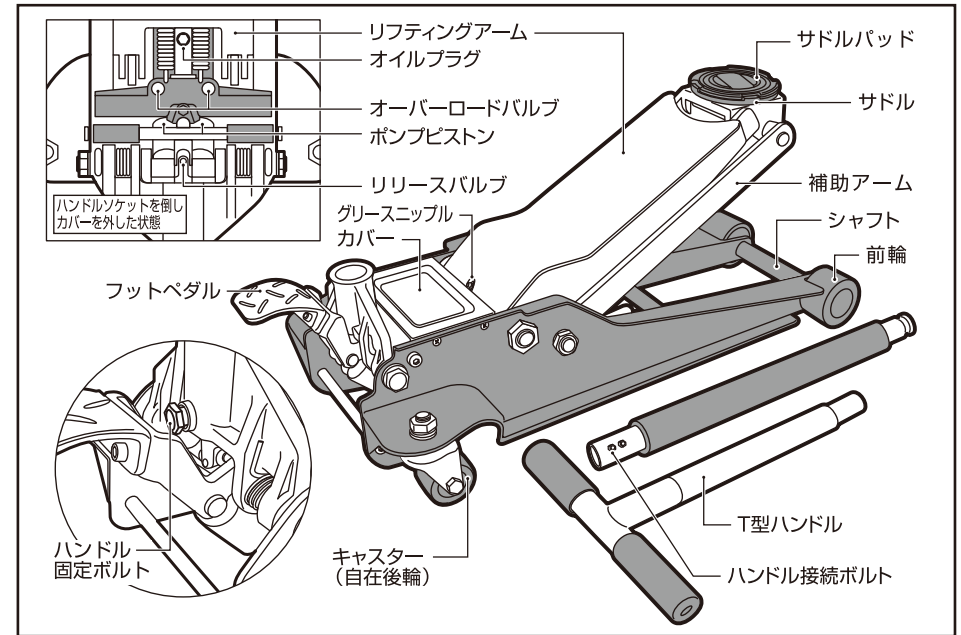


注意

- 本製品の能力（3t）以上の負荷で使用しないでください。能力を超えた負荷を加えるとジャッキが破損する可能性があります。
- 必要以上に対象物をジャッキアップしないでください。
- 本製品は-10℃～60℃の範囲の温度環境で使用してください。本来の性能を発揮しないばかりか、ジャッキが破損する場合があります。



各部の名称



使いかた

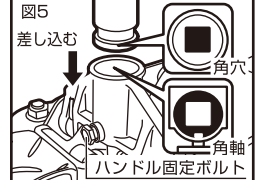
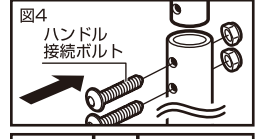
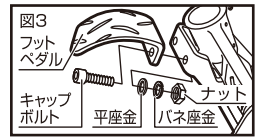
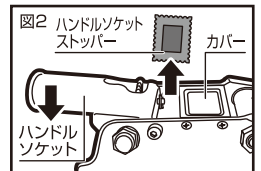
■はじめてご使用になる前に **重要**

- 1) ハンドルソケットを押さえながら、ハンドルソケットとカバーの間に挟まれているハンドルソケットストッパーを図2のように取り外してロックを解除してください。
※ストッパーを外さなければ本製品は使用できません。
※ストッパーを外した後、急に手を離すとハンドルソケットが勢いよく跳ね上がりますので充分にご注意ください。
- 2) 作業前にジャッキの点検を行い、異常の無いことを確認してください。
- 3) キャップボルトをフットペダルの穴に通し、本体に取り付けてください。平座金、バネ座金、ナットの順にキャップボルトに取り付けて締め付けてください。（図3参照）
※使用中に緩まないようにしっかりと締め付けてください。
- 4) 2本のハンドルを接続して、ハンドル接続ボルトをしっかりと締め付けてください。（図4参照）ボルトが完全に締められていない場合、リリースバルブを完全に締めることができません。
- 5) ハンドルをハンドルソケットに差し込み、ハンドル固定ボルトをしっかりと締め付けて、ハンドルが抜けなことを確認してください。（図5参照）



注意

- ハンドルの角穴とハンドルソケット内部の角軸の向きを合わせてハンドルを差し込んでください。
- ハンドルをひっぱり、ハンドルが抜けなことを確認してください。ハンドルが抜ける場合は、ハンドルの角穴とハンドルソケット内の角軸の向きを確認してください。



使いかた

■ジャッキアップ

- 1) 平坦で堅い地面にジャッキを置き、ジャッキポイント*の位置を確認してサドルをセットしてください。
*ジャッキアップする反対側の車輪に車輪止めをしてください。
*ジャッキポイント: 車体下部にあるジャッキのサドルを当てるための適切な箇所 (ガレージジャッキのジャッキポイントは車種によって異なりますので自動車に添付のマニュアルや自動車メーカーに確認するなど、事前に確認してください。)

⚠ 注意

- 2) T型ハンドルを時計方向に回して、リリースバルブを確実に締め付けてください。(図6 参照)
*T字部分を回してもリリースバルブは締まりません。斜線部を回してください。
*リリースバルブの締め付けが不十分な場合、ジャッキアップしなかったり、下がってきたりしますのでしっかりと締め付けてください。
- 3) フットペダルまたはT型ハンドルを上下に動かし、サドルをジャッキポイント付近まで上昇させた後に、一度停止させて荷重の中心がサドルの中央にかかることを確認してください。(図7 参照)
- 4) 確認後ハンドルを上下に動かして、目的の高さまでジャッキアップしてください。
*地面からタイヤが離れ、作業ができる高さまでジャッキアップを停止させてください。必要以上にジャッキアップすると製品の故障原因になるばかりか、ジャッキポイントが変形したり、荷重バランスの崩れにより重大な事故につながります。

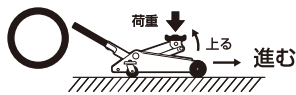
【チェックポイント】

- ① 荷重の中心がサドルの中央にかかっていますか？
- ② サドルの上昇とともに、ジャッキが前に移動していますか？
- ③ ジャッキアップ中に荷重の中心がサドルの中央からずれてきていませんか？

⚠ 警告

- 傾斜地や地面が軟弱な場所、および平坦でない場所では使用しないでください。ジャッキが傾いたり、サドルが外れて自動車が落下し使用者が死亡したり重傷を負う危険があります。また傾斜地ではジャッキアップ中に自動車が動き出して重大な事故につながります。

強固な地面(可)



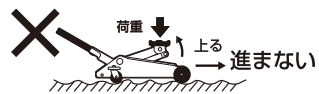
柔らかい地面はめり込んで進まない(不可)



鋼板等の強固な板を敷いた場合(可)



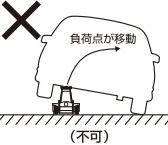
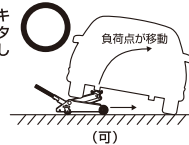
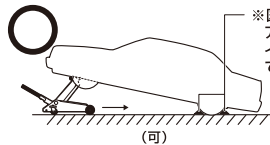
凹凸な地面は前へ進まない(不可)



- 傾斜した場所や勾配のある道路では使用しないでください。

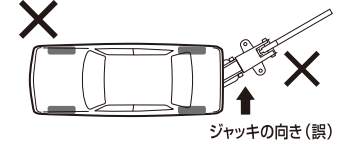
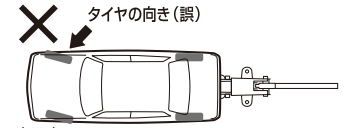
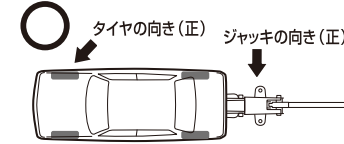


- ジャッキの昇降に合わせてジャッキの車輪が回転し、ジャッキが下図の矢印の方向に移動していることを確認してください。ジャッキが移動しない場合、ジャッキポイントからサドルが外れ、自動車が落下し使用者が死亡したり重傷を負う危険性があります。
*下のイラストは、サドル上昇時の移動方向です。下降時は矢印の方向と逆の方向へ移動します。



- 自動車メーカーの指定するジャッキポイント以外では、ジャッキアップしないでください。車体に変形したり、荷重バランスの崩れにより重大な事故につながります。
*パンタグラフ用のジャッキポイントでジャッキアップしないでください。
- ジャッキアップの際は自動車のタイヤをまっすぐの状態にして、ジャッキを車体に対してまっすぐに入れてください。ジャッキの向きが斜めになっている状態でジャッキアップした場合、サドルがジャッキポイントから外れ自動車が落下し使用者が死亡したり重傷を負う危険性があります。

- 車のタイヤは、車の直進方向にして、ジャッキを車に対してまっすぐに入れてください。



- サドルを上昇させて、サドルが車体に当たった時点で一度停止させて、サドルが車体のジャッキポイントの正しい位置(荷重の中心がサドルの中央にかかる位置)にセットされている事を確認してください。セットする位置がずれていた場合、車体に変形したり、荷重バランスの崩れにより重大な事故につながります。

⚠ 注意

- 荷物や人を乗せたままジャッキアップしないでください。
- エンジンかけたままジャッキアップしないでください。
- ハンドルの上下操作はハンドルをしっかり握って操作してください。ジャッキに異常が発生した場合、ハンドルがはね上がり急に操作が軽くなることもあり、ケガをする可能性があります。
- 自動車メーカーの指定するガレージジャッキ用のジャッキポイント以外ではジャッキアップしないでください。車体に変形したり、荷重バランスの崩れにより重大な事故につながります。*パンタグラフジャッキ用のジャッキポイントでジャッキアップしないでください。
- 電子制御サスペンション車は、必ず自動車に添付のマニュアルを確認してからジャッキアップ作業をしてください。

■一定の高さで維持する場合

ハンドルの上下動作を停止するとサドルが自動車を維持したままの状態になります。

⚠ 危険

- ジャッキアップした状態のまま車体の下には絶対に入らないでください。車体の下に入って作業をする場合は必ずジャッキスタンドなどを使用してください。(P.6 関連商品参照)

⚠ 注意

- ジャッキアップ作業中はリリースバルブに触れないでください。

■ジャッキダウン

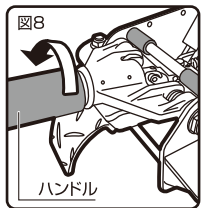
ハンドルを反時計方向にゆっくりと回すとリリースバルブが緩み、サドルが下降します。(図8 参照)

⚠ 危険

- リリースバルブを急激に緩めないでください。サドルが急激に降りるため、自動車が落下し使用者が死亡したり重傷を負う危険性があります。

⚠ 注意

- ジャッキダウンする際に、フレームなど可動部分で指などを挟まないように注意してください。
- 故障の原因になりますので、リリースバルブは完全に締められた状態から1回転以上緩めないでください。オイル漏れや故障の原因になります。



■作業が終了したら

作業が終了したらサドルやリフティングアーム、フレーム、可動部分などに付着した泥、オイル、グリース、水滴などの汚れをきれいにふき取ってください。

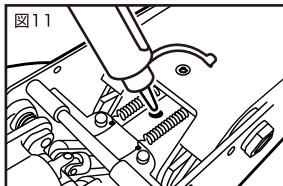
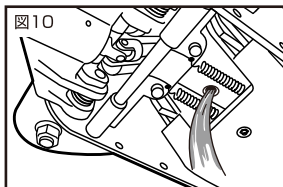
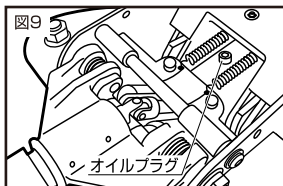
メンテナンス

ジャッキのお手入れ

- 1) ジャッキを使用しないときは錆などによる動作不良を防止するため、リフティングアームおよびポンプピストンを最下位の位置に下げておいてください。
- 2) ジャッキは常に清潔にして、グリースニップルおよび可動部分に時々注油してください。
- 3) オイル量を定期的に確認し、オイルの量が減少している場合は適量を補充してください。
(下記ジャッキオイルの補充および交換 参照)
- 4) ひんぱんにご使用になる場合や長期保存の場合は、最良の状態を保持するために約1年毎にジャッキオイルを交換してください。(下記ジャッキオイルの補充および交換 参照)
- 5) 保管する際は、錆や動作不良などの故障の原因になりますので雨や雪がかかる場所や湿度の多い場所には保管しないでください。

ジャッキオイルの補充および交換

- 1) プラスドライバーを使用してカバー側面のネジ(4本)を外しカバーを取り外してください。
- 2) 六角棒レンチを使用してオイルプラグを反時計方向に回して取り外し、リリースバルブを緩めます。(図9 参照)
※リリースバルブは完全に締めた状態から1回転以上緩めないでください。
- 3) オイルプラグの穴を下に向けて古いオイルを排出してください。(図10 参照)
- 4) ほぼ完全にオイルを排出した後にジャッキオイル(No.366オイルジャッキ専用作動油)をオイルプラグの穴に注入してください。(図11 参照)
またオイル注入中にゴミなどが入らないように注意してください。
- 5) ジャッキオイルの適正量は、ジャッキを水平な場所へ置き、リフティングアームおよびポンプピストンを最下位まで下げた状態でオイルプラグの穴から油面まで約3mmの空間を設けた位置です。(オイルの適正量 参照)



オイルの適正量

ジャッキオイルの適正量は、サドルを最低位置まで下げた状態で、オイルプラグの穴から、油面まで約3mmの空間を設けた位置です。



- 6) サドルが途中でしゃ上がりしないときは、ジャッキオイルの不足が考えられますので、ジャッキオイルを適正な量まで補充してください。
- 7) 作業終了後はオイルプラグのOリングに薄くオイルを塗り、六角棒レンチを使用してオイルプラグを時計方向に回して本体に取り付けてください。

注意

- 作動油は石油系の物質であるため、通気が良く引火しないよう火気から充分離れた場所で作業してください。
- ジャッキオイルは指定されたもの以外は使用しないでください。エンジンオイルやその他のオイルは粘度が異なるため動作不良の原因になりますので絶対に使用しないでください。

重要

作動油 | ジャッキ用オイル(ISO VG10) (純正ジャッキオイル No.366 オイルジャッキ専用作動油をご使用ください。)

- ジャッキオイルの量が適正量より多かたったり少なかたったりした場合、サドルが途中でしゃ上がりません。必ずリフティングアームを最下位に下げた状態でオイルプラグの穴から油面まで約3mmの空間を設けてください。(上図オイルの適正量 参照)

エア抜きの

- 1) ジャッキを水平な場所へ置き、リリースバルブを緩めてください。
※リリースバルブは完全に締めた状態から1回転以上緩めないでください。
- 2) オイルプラグを取り外してください。
- 3) ハンドルソケットをすばやく10回程度ポンピングしてください。この動作をすることによりパワーユニット内部に入っていたエアが抜けて正常に動作します。
- 4) オイルプラグを取り付けてください。(ジャッキオイルの補充および交換の“7”) 参照)

オイルの強制循環

- 1) ジャッキを水平な場所へ置き、リリースバルブを緩めてください。※リリースバルブは完全に締めた状態から1回転以上緩めないでください。
- 2) 前輪のシャフトに足をかけ、手でリフティングアームを最高位まですばやく引き上げてください。
- 3) 2の動作を数回繰り返します。この動作を行うことによりパワーユニット内のゴミが強制的にオイルタンク内に移動します。オイルタンクに設けられたゴミ除去ネットによりゴミが再びパワーユニット内に戻ることはありません。

製品仕様

改良のため、予告なく仕様変更する場合があります。予めご了承ください。

品番: No.1387	最低位: 90mm	ハンドル長: 980mm (2本連結時)
品名: ガレージャッキ 3t	揚程: 462mm	使用温度環境: -10℃~60℃
最大荷重: 3t	本体サイズ: 790(L)X364(W)X180(H)mm	作動油: ISO VG10
最高位: 552mm	本体質量: 45kg	作動油量: 250cc

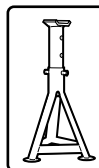
故障と処置

故障かなと思われる前にもう一度この取扱説明書をよくお読み頂き、下記の点検をしてください。点検をしても状態に変化がない場合は、お買い上げの販売店または弊社へご相談ください。

リリースバルブの操作ができない。ハンドル固定ボルトを締めるとハンドルの回転ができない。	はい	ハンドルの角穴とハンドルソケット内部の角軸の向きがずれている。	はい	ハンドルの角穴とハンドルソケット内部の角軸の向きを合わせてください。
	いいえ	販売店または弊社までご連絡ください		
サドルが全然上がらない	いいえ	リリースバルブが完全に締まっている	はい	確実に締める
	はい	ジャッキオイルが規定量入っている	いいえ	ジャッキオイルを補充する ※P.5 ジャッキオイルの補充および交換を参照
	はい	パワーユニット内にエアが入っている	はい	エア抜きをする ※P.5 エア抜き方法を参照
	いいえ	パワーユニット内にゴミが入っている	はい	オイルの強制循環をする ※P.5 オイルの強制循環を参照
	いいえ	販売店または弊社までご連絡ください		
サドルが途中でしゃ上がりしない	いいえ	ジャッキオイルが不足している	はい	ジャッキオイルを補充する ※P.5 ジャッキオイルの補充および交換を参照
	はい	ジャッキオイルが多くなりすぎている	はい	余分なジャッキオイルを出す
	いいえ	販売店または弊社までご連絡ください		
	いいえ	販売店または弊社までご連絡ください		
サドルが自然に下がってくる	いいえ	リリースバルブが完全に締まっている	はい	確実に締める
	はい	販売店または弊社までご連絡ください		
サドルが下がらない	いいえ	可動部分に注油されている	はい	注油する
	はい	販売店または弊社までご連絡ください		

お問い合わせ先
06-6996-2631

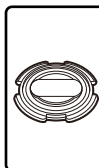
関連商品(別売)



キーパーマン
No.923 (2t用)
最大荷重: 2トン
サドル高さ: 265~380mm



タイヤストッパー
No.210
●ワイド設計 (幅100mm)
No.924 (3t用)
最大荷重: 3トン
サドル高さ: 295~490mm



サドルパッド
No.1391



キャスター
No.1392



前輪
No.1394